

都市伝説レベルの誤解と偏見！ 副鼻腔炎の正しい知識を 身につけよう

ドクターズコンテンツシリーズ #42

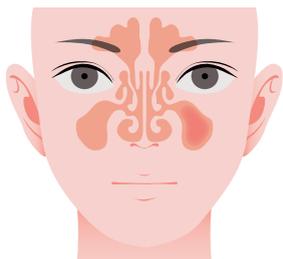
はじめに

副鼻腔炎は、風邪をこじらせた時にかかりやすい非常に身近な病気です。ところが、原因や治療法について正しく理解されていない方もいらっしゃるようです。副鼻腔炎の症状や受診の目安などを、ご紹介しますので、ぜひ役立ててください。



Doctor
えんどう耳鼻咽喉科
クリニック
えんどう まこと
遠藤 誠 先生

副鼻腔炎ってどんな病気？



「副鼻腔」とは、目のまわりに存在する、鼻とつながっている空洞をさします。そして、鼻から入ってきた細菌が副鼻腔に感染して炎症を起こした状態を「副鼻腔炎」と言います。

昔よく耳にした蓄膿症は副鼻腔炎の一種です。副鼻腔炎のうち、副鼻腔に膿がたまって慢性化したものを、「膿が蓄積する」と書いて蓄膿症と呼ぶようになりました。蓄膿症は正式な医学用語ではないため、慢性副鼻腔炎（もしくは慢性鼻副鼻腔炎）と呼ぶのが正式です。

副鼻腔炎のおもな症状



- 鼻がつまる
- 粘り気のある鼻水が出る
- 鼻水がのどに落ちる（後鼻漏）
- 頭痛・頭重感がある
- 目の奥が痛い・重い
- 咳や痰が出る

上記の中から一つ以上症状があり、なおかつ副鼻腔に影がある場合、副鼻腔炎と診断されます。

鼻づまりは脳の成長を妨げる

人の脳は熱に弱く、温度が上昇すると頭がボーッと思考能力が低下してしまいます。このような状態を防ぐために、私たちは鼻で呼吸しているのです。鼻から吸い込んだ空気が鼻のたくさんの血管や副鼻腔に触れることで脳の温度を冷却すると考えられています。

昔は「鼻が悪いと頭が悪くなる」と言われていました。これは、表現にこそ問題がありますが、鼻づまりが脳に影響を与えることは医学的にも明らかになっています。



副鼻腔炎のおもな治療法

副鼻腔炎は、風邪とセットで一時的に発症する「急性副鼻腔炎」と、3ヶ月以上症状が続く「慢性副鼻腔炎」の二つに分けられます。

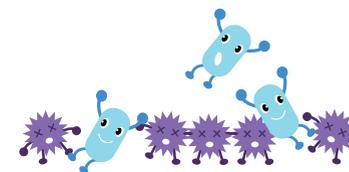
処方される薬の種類とそれぞれの特徴

急性副鼻腔炎の薬



副鼻腔炎を起こしている細菌を殺す作用をもった抗生剤を使います。ペニシリン系をはじめ、セフェム系、ニューキノロン系のおもに3種類の抗生剤の中から処方されるケースが多いです。

慢性副鼻腔炎の薬



急性副鼻腔炎が長引いてできてしまったバイオフィルム（細菌同士が集まってスクラムを組んだ状態）を溶かす作用や、鼻の中にできたポリープを小さくする働きをもった抗生剤を飲み続けます。

早く治すために

耳鼻科では、鼻水を吸って鼻の中をきれいにする処置と、炎症をおさえる薬が入った蒸気を鼻から吸入する「ネブライザー」の二つの処置をします。この処置をすることで鼻の中がきれいになり、薬も効きやすくなるため、治りが早くなります。



受診の目安

風邪をひきはじめて1週間以上経ち、どろっとした粘性の鼻水が出たり、粘性の鼻水が喉に落ちる後鼻漏が起こったりしたら副鼻腔炎の可能性あります。早めに耳鼻科を受診しましょう。

この他にも…

ドクターからの健康アドバイス「ドクターズコンテンツ」
サイトでは様々な症例をご紹介します。

- 「市販の点鼻薬は使い過ぎると悪循環に
- 風邪とセットで頻発する「子どもの副鼻腔炎」
- 「メスを入れる手術」は昔の話！
今は内視鏡手術が主流に！
など掲載中！

アイチケット広場



パソコン



スマホ



ケータイから

<http://park.paa.jp/>